

第2回 東金市外三市町清掃組合新ごみ処理施設処理方式検討委員会 会議録

<開催日時>

平成30年6月29日(金)午後1時00分から午後2時30分まで

<開催場所>

東金市外三市町清掃組合2階小会議室

<出席者>

○新ごみ処理施設処理方式検討委員会

荒井委員長

出口副委員長

藤原委員

○事務局

東金市外三市町清掃組合

二井事務局長、小川総務課長、片岡計画係長、根本主査、日暮副主査、谷川主任主事、北田主事

○パシフィックコンサルタンツ株式会社

篠木技師、本庄技師

<会議内容>

1. 開会

2. 議事

- (1) 処理方式の検討手順について
- (2) 処理方式の検討における前提条件の整理
- (3) ごみ処理方式の抽出・整理
- (4) 評価項目の検討

3. その他

4. 閉会

<議事概要>

2. 議事

- (1) 処理方式の検討手順について
 - ・今後の委員会において想定される議題及び委員会の開催時期を説明し、了解を得た。
- (2) 処理方式の検討における前提条件の整理
 - ・新施設の建設候補地及びユーティリティ条件、新施設における施設整備基本方針、供用開始年、施設規模、計画ごみ質について説明し、処理方式の選定には影響はないものの、低位発熱量の設計値がやや高い為、将来的には分別区分やリサイクルの状況を勘案しながら数値の見直しをした方が良いとの意見が挙がる。
- (3) ごみ処理方式の抽出・整理
 - ・検討対象とする処理方式の抽出条件 {①本組合のごみ質、②想定施設規模 (1

25 t/日以上)、③近年の動向、④副生成物の課題}及び評価基準について説明した。一次選定については、抽出条件を原則とし、国の動向及び近年の受注動向も踏まえた上で、第3回処理方式検討委員会にて審議することとなった。

(4) 評価項目の検討

・二次選定における評価項目(案)について説明し、項目間の内容の重複等を修正すべきとの意見が挙がり、修正後の資料の内容について、第3回処理方式検討委員会にて審議することとなった。

【以下主な質疑・意見】

<委員> 計画ごみ質の想定について、低位発熱量が比較的高いように思う。現状のごみ分別はどのようなものか。

<事務局> 当組合では、可燃ごみの中に資源物であるプラスチック類や紙類が入っているのが現状です。

<委員> 東金市外三市町清掃組合のごみは厨芥類が少なく、プラスチック類が多い印象を受ける。

将来的には分別区分やリサイクルの状況を勘案しながら数値の見直しをしていく必要があるのではないかと思う。ただし、本件はあくまでも今後の新施設整備事業を進める上での指摘事項として捉えていただきたい。

<委員> ガス化溶融施設の副生成物の課題について、いずれの方式も副生成物の安定処理に課題があると表記されている理由はなぜか。

<事務局> 溶融飛灰について処理先が安定していないことから、このような表現をしております。

<委員> DBO方式等の事業方式で運営する場合、事業者が副生成物を引き取るケースもあると思うので、必ずしも安定処理に課題があるとは言えないのではないかと思う。「処理先の確保に課題がある」等の表現の方が良いのではないか。

<事務局> 了解しました。次回までに修正いたします。

<委員> 評価項目(案)の中項目について、エネルギー回収量と発電量は売電収入の考え方と関連性が大きく、資源回収量は金属及びスラグ等の売却収入と関係してくるほか、最終処分量と最終処分に掛る費用も関係がある為、重複がないように項目は再度整理したほうがよいのではないか。

30年間以上の稼動が可能な方式という項目についても、ガス化溶融技術については30年も実績はない為、どのように評価していくのが不透明であると思う。また、公害防止基準の遵守については、そもそも遵守しなければならないものである為、どのような基準で判断す

るのかをあらかじめ決定しておく必要があると思う。

<委員> 中項目の内、事故・トラブル事例について、プラントメーカー側から中々情報は得にくいのではないか。どのように調査するかよく検討すべきであると思う。

<委員> 資源回収量の項目は具体的に何を指すのかよく検討していただきたい。スラグは資源回収量とみるのか、飛灰も山本還元によって重金属となるため資源とするのか。特に、ガス化溶融炉を主に取り扱うメーカーはゼロエミッションを謳っているので、最終的に全て資源化しているので残渣は出ないとしている会社もある。

<事務局> いただいたご意見を踏まえ、次回改めてお示しいたします。

3. その他

・第3回新ごみ処理施設処理方式検討委員会開催日程について、8月7日午前10時より開催することを確認した。

4. 閉会